安達峰一郎記念賞に国際社会貢献の2人

都内で贈賞式

国際法に関する優れた研究業績を上げた個人を表彰する安達峰一郎記念賞の贈賞式が21日、東京・一ツ橋の如水会館で行われた。今年は、著書「自衛権の系譜―戦間期の多様化と軌跡」を出版した西嶋美智子久留米大法学部准教授と、「なぜ『同意に基づく武力行使』が正当化されるのか」を出版した村角愛佳神戸大大学院法学研究科特命助教の2人が受賞した。

贈賞式には、国際法学会などの関係者が出席。安達峰一郎記念財団の鈴木正貢理事長が「今後も一層、国際社会に貢献する人材の養成に取り組む」とあいさつし、表彰状などを手渡した。

西嶋准教授は「今、世界各地で紛争が起きている。諦めることなく国際平和に力を尽くした安達博士たちに倣い、研究を通じて尽力していきたい」とあいさつ。村角特命助教は「国際法は苦しむ人間、悩める国々に影響を与えてきた法。日本が世界に誇る国際知識人・安達博士の記念賞受賞者として恥ずかしくないよう精進していく」と決意を述べた。

記念賞は、山辺町出身の国際法学者、安達峰一郎の偉業を後世に伝え、有為な国際的人材を養成する目的で設立された同財団が、1968（昭和43）年から贈っている。58回目。

（坂本由美子）

安達峰一郎記念賞を贈られた西嶋美智子久留米大法学部准教授（右）と村角愛佳神戸大大学院法学研究科特命助教　＝東京・一ツ橋